

授業科目	クリティカルケア看護学					実務家教員担当科目	○
単位	1	履修	選択	開講年次	4	開講時期	前期
担当教員	財津 優子、高橋 甲枝						
授業概要	<p>実務家教員として冠状動脈疾患ケアユニット等の経験を生かし、以下の講義を行う。</p> <p>本科目では、救急・クリティカルケア看護に必要な基本的知識や実践的な内容を学ぶことを目的とし、学内での講義や演習を通して展開していく。まず、事例をよみ、倫理的課題を明確にし、課題を解決する方略を考えることから、患者の意思を守ることについて思考を深める。さらに、演習から患者の観察、看護援助を学内で学びの共有をすることで救急・クリティカルケア看護の専門性について知見を深める。</p> <p>本講義は、集中講義であり、1回に2~4コマ連続で実施する。</p>						
授業形態	対面授業			授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 		

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者及び家族の精神的ケアについて、倫理的課題・倫理的調整を踏まえて説明できる (DP1-2, DP2-1) 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者とその家族の特徴を説明できる (DP1-2) 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の観察および看護援助について安全・安楽の観点から根拠を述べることができる (DP2-1) 人工呼吸器装着中の看護実践を体験し、知見を深めることができる (DP3-1, DP4-1, DP4-2) 救急・クリティカルケア看護の専門性について考察することができる (DP2-1, DP3-1, DP4-3) <p>行動目標 1~5 を修得できる</p>
理想的レベル	<ul style="list-style-type: none"> 標準的なレベルも行動目標 1~5 の全てを達成したうえで、学習および体験を通して救急・クリティカルケア看護の重要性について述べることができる。 救急・クリティカルケアにおける人間の尊厳を与える看護について自らの考えを述べることができる。

評価方法・評価割合

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	0	
小テスト	0	
レポート	45%	レポート評価
発表（口頭、プレゼンテーション）	55%	グループワーク・発表・授業貢献度
レポート外の提出物	0	
その他	0	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	<input type="radio"/>	DP2	<input type="radio"/>	DP3	<input type="radio"/>	DP4	<input type="radio"/>	DP5	-	ナンパリング	NU31605J
学習課題（予習・復習）										1回の目安時間（時間）	
講義中に課題を提示する。										1	

第1回	<p>テーマ：危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題について、思考を深める。事例を検討する。1（（財津、高橋）第1回～4回まで連続で行う。</p> <p>①事例を読み「医学的適応」「患者の意向」「QOL」「周囲の状況」の視点から情報を整理 ②事例をよみ、患者・家族・医療従事者の倫理的課題を考える (個人ワーク)</p>
第2回	<p>テーマ：危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題について、思考を深める。事例を検討する。2（財津、高橋）</p> <p>③倫理的課題を解決するための具体的な方略を考える (個人ワーク)</p>
第3回	<p>テーマ：危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題について、思考を深める。事例を検討する。3（財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで①②③について情報や意見を整理する <p>①事例を読み「医学的適応」「患者の意向」「QOL」「周囲の状況」の視点から情報を整理 ②事例をよみ、患者・家族・医療従事者の倫理的課題を考える ③倫理的課題を解決するための具体的な方略を考える (グループワーク)</p>
第4回	<p>テーマ：危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題について、思考を深める。事例を検討する。4（財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで整理した情報や意見を発表する ・他者と意見交換することで、知見を深める <p>(グループ発表、ディスカッション)</p>
第5回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護、1-①【講義・演習】（外部講師：認定看護師、財津、高橋）第5回～第7回まで連続で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器を装着した患者の看護～構造と機能～
第6回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護、1-②【講義・演習】（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器装着患者の維持ケア
第7回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護、1-③【演習】（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器を装着した患者の看護～排痰法～
第8回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護、2-①【演習】（外部講師：認定看護師、財津、高橋）第8回～第10回まで連続で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経鼻カニューラ高流量酸素療法（体験会）
第9回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護、2-②【演習】（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器を実際に装着し患者体験から学ぶ（体験会）
第10回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護、2-③【演習】（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔ケア（口腔ケアを含む）、合併症予防（肺理学療法、体位ドレナージ）の看護について
第11回	<p>テーマ：急性期看護学における、生命の危機的状況にある患者の看護【講義】①（高橋）第11回～第13回まで連続で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳神経・運動器・消化器・呼吸器疾患などの患者の病態・検査・看護について学ぶ。

第12回	テーマ：救急領域における、主要病態に対する救急処置とケア1【講義】②（財津） 1.外傷患者への対応やトリアージについて、解説する。
第13回	テーマ：救急領域における、主要病態に対する救急処置とケア2【講義】③（財津） 1.熱傷・中毒患者への対応について、解説する。
第14回	テーマ：全体講義のまとめ 学内での学びや体験を通して、救急・クリティカルケア看護の専門性について考察する。1（財津、高橋）第14回～第15回まで連続で行う。 ・救急・クリティカルケア演習を振り返り、救急・クリティカルケア看護の専門性について考察する（個人ワーク）
第15回	テーマ：全体講義のまとめ 学内での学びや体験を通して、救急・クリティカルケア看護の専門性について考察する。2（財津、高橋） ・個人で整理した考察を発表する ・他者と意見交換することで、知見を深める (個人発表、ディスカッション)
テキスト	特に定めない。必要時、資料等を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	発表の機会を2回設けている。その講評でフィードバックを行う。
学生へのメッセージ・コメント	既習の形態機能学、疾病論、基礎看護技術、成人急性期看護方法論、やヘルスアセスメントで学んだ内容について振り返っておくこと。 ・演習で使用する資料は、必要時演習前に配布します。 ・クリティカルケア看護学は、グループワークと講義を通して、クリティカルケア看護の重要性を考える科目です。卒業後の進路を含め、クリティカルケア看護領域に関心のある皆さんのが選択することを期待しています。 ・クリティカルケア認定看護師による実践的な講義を行います。実際の人工呼吸器を用いて、患者体験を行い、患者のおかれている状況を理解するとともに、その看護について学びを深めることができます。 ・本講義は集中講義で行います。 ・外部講師の予定により、日程変更の可能性があります。

